

ある大学の先生が、入試に関する研究に関連して、人材の発掘や選抜に最も手間暇をかけていると思われるプロ野球のドラフトの相関性などを探究していた。その結果、人を育てるのには「発見」「選抜」「育成」の3段階があり、選抜＝ドラフトがすべてではなく、育成＝入団後の指導と努力の方が決定的に重要であることを、元大リーガーのイチローさんをも例に挙げながら指摘している。

梁川高校の生徒は、高校入試という「選抜」の段階を経て本校に入学している。そして、入学後は「育成」の段階に入る。前述の表現を借りれば、高校入試での選抜がすべてではなく、入学後の指導と努力の方が重要であるとなる。梁川高校にもイチローはいるはずである。今までもいたし、現在の生徒の中にもいるはずである。イチローにとっての仰木監督は、本校生徒であれば梁川高校の先生方となる。

4月1日には、転入職員が着任した。その中に、この3月まで大学生だった若者がいる。R先生である。3月25日が大学の卒業式のはずであったが、中止となったそうである。このような学生がどれほどいたことだろう。

R先生は福島県教員採用試験という「選抜」を突破してきた。それだけでも大したものだが、それがすべてではない。重要なのは、育成＝教員になった後の指導と努力である。彼は、毎日毎日新しいことを吸収している。会社で言えば新入社員である。一般的には新入社員には研修期間があるが、教員の場合は一人の教員として働きながら研修をしていく。医師ならば研修医というシステムがあるが、教員にはない。22歳でも59歳でも同じ教員である。

R先生が教育界のイチローであるかどうかはまだわからない。R先生にとっての仰木監督は、梁川高校の先生方である。彼には言っている。一番理想的なのは、この先生のようにになりたいというモデルのような先生が身近にいることだが、これはなかなかむずかしい。だが、〇〇先生のここがすばらしい、〇〇先生のこういうところを見習いたいというように、先生方の優れたところを盗む、吸収することはできる。そうして、自分というものをつくってほしい。そのためには、先生方のことをよく見なければならぬ。このことは、生徒のことをよく見ることにも通じる。

R先生には、ベテランの先生方に比べれば経験も知識もない。しかし、ベテランにはないもの、ベテランが努力しても得ることができないものがある。それは若さである。往々にして若さが経験や知識を凌駕することがある。若さは恐ろしい。若さには魅力がある。

よく気持ちだけは若いと言うが、哀しいかな本当の若さにはかなわない。この2週間でR先生は徐々に変わってきている。毎日その変化＝成長を見るのが楽しみである。これは生徒も同じである。高校生は日々成長している。個人差があり、見た目にはわかりにくい場合もあるが、着実に大人への階段を上っている。

R先生には、生徒のすぐ近くで、泣いたり笑ったり、悩んだり苦しんだり、喜んだり落ち込んだりしながら成長してほしい。一人の教員として、一人の大人として、一人の人間としてである。人間くさく、生徒と共に成長できる教員になってほしい。